時間割番号	2U1001	科目名	教育実践特別演習Ⅰ	単 位 数	2
担 当 者					
開講学期	前期	開講年次	1	区分	
概　　要	学部段階で修得した成果に基づいて、子どもたちを取り巻く社会的諸環境の変化の中で生じている様々な教育諸課題を発見し、その解決に必要な方途について主体的に考えることができる力を育成します。				
教育目標との関連	子ども発達教育専攻科の教育目標である「学士課程4年間で学修した小学校教員として必要な知識、技能などの基盤の上に、教育に関する専門的な事項を習得し、教育実践現場における諸課題の解決力を磨く」と関連しています。				
到達目標	学士課程における教員養成教育での学修成果を踏まえ、幼小連携を意識しつつ、小学校における教科指導、生徒指導などの現代的諸課題を主体的に発見し、その課題解決に必要な高度な実践力の育成を図ります。				
評価方法	授業への参加状況（討論への参加、討論内容、受講態度）、レポートをもとに、目標到達度を総合的に評価します。				
備　　考					
ﾃｷｽﾄ・教材・経費等	その都度、紹介します。 ▽参考書：適宜、指示します。				
授業計画	第1回：オリエンテーション　授業計画、達成目標 第2回：教育現場の課題 1　生徒指導 第3回：教育現場の課題 2　子どもの発達 第4回：教育現場の課題 3　道徳教育と道徳学習指導 第5回：教育現場の課題 4　国語科学習指導 第6回：教育現場の課題 5　算数科学習指導 第7回：教育現場の課題 6　理科学習指導 第8回：教育現場の課題 7　生活科・社会科学習指導 第9回：教育現場の課題 8　音楽学習指導 第10回：教育現場の課題 9　体育学習指導 第11回：教育現場の課題10　図画工作学習指導 第12回：教育現場の課題11　地域との連携 第13回：教育現場の課題12　教育課程 第14回：教育現場の課題13　教育行政 第15回：まとめと教育実践特別演習Ⅱへの展望				
学習上（予習・復習）のアドバイス	本授業ではおおよそ毎回、「理論と実践」にかかわるレポートを課します。この課題に精一杯取り組むことがおのずと現代的諸課題を主体的に発見し、その課題解決に必要な高度な実践力を獲得していくことにつながります。精一杯の取り組みを要求します。なお、当然のことながら一連の活動への取り組み姿勢が評価の際、最も大きな要素になることを申し添えておきます。				
関連リンク					

時間割番号	2U2001	科目名	教育実践特別演習Ⅱ	単 位 数	2
担 当 者					
開講学期	後期	開講年次	1	区分	
概　　要	「教育実践特別演習Ⅰ」の学修成果を発表・討論という形態によって、教員に必要な資質能力の総合化を図るとともに、その定着状況を評価し、またグループワークを通して教員に必要な人間関係力の育成を図るとともに、タームペーパーとして成果を集約する。				
教育目標との関連	子ども発達教育専攻科の教育目標である「学士課程4年間で学修した小学校教員として必要な知識、技能などの基盤の上に、教育に関する専門的な事項を習得し、教育実践現場における諸課題の解決力を磨く」と関連しています。				
到達目標	「教育実践特別演習Ⅰ」の学修成果の発表を通して、教員としての資質能力の定着状況を評価しつつ、教員に必要となる課題解決力やコミュニケーション力の高度化を図る。				
評価方法	授業への参加状況（討論への参加、討論内容、受講態度）やタームペーパーをもとに、目標到達度を総合的に評価する。				
備　　考					
ﾃｷｽﾄ・教材・経費等	その都度、紹介する。 ▽参考書：適宜、指示する。				
授業計画	第1回：オリエンテーション　授業計画、達成目標 、タームペーパー作成要領 第2回：教育現場の課題解決 1　生徒指導 第3回：教育現場の課題 2　子どもの発達 第4回：教育現場の課題解決 3　道徳教育と道徳学習指導 第5回：教育現場の課題解決 4　国語科学習指導 第6回：教育現場の課題解決 5　算数科学習指導 第7回：教育現場の課題解決 6　理科学習指導 第8回：教育現場の課題解決 7　生活科・社会科学習指導 第9回：教育現場の課題解決 8　音楽学習指導 第10回：教育現場の課題解決 9　体育学習指導 第11回：教育現場の課題解決 10　図画工作学習指導 第12回：教育現場の課題解決 11　地域との連携 第13回：教育現場の課題解決 12　教育課程 第14回：教育現場の課題解決 13　教育行政 第15回：まとめ（担当：鈴木盛久）				
学習上（予習・復習）のアドバイス	本授業ではおおよそ毎回、「理論と実践」にかかわるレポートを課します。さらに学期末には、本授業を通して発見した課題についてタームペーパーとして集約して貰います。				
関連リンク					

時間割番号	2U1002	科目名	教育学特論	単 位 数	2
担 当 者					
開講学期	前期	開講年次	1	区分	
概　　要	学校教育に関する様々な問題が報道され、また、国や地方レベルでの教育改革が進められる中で、学校と社会の関わりについて、具体的なトピックを取り上げつつ、歴史的、社会学的、政策学的、教育学的な観点からの問題解決的な学習を行います。				
教育目標との関連	子ども発達教育専攻科の教育目標である「学士課程4年間で学修した小学校教員として必要な知識、技能などの基盤の上に、教育に関する専門的な事項を習得し、教育実践現場における諸課題の解決力を磨く」と関連しています。				
到達目標	大学において学習する教育・教職に関する基礎的知識・理解を踏まえながら、教育思想、教育史、教育社会学、教育政策学等の知見に基づき、学校教育と社会の関係に潜む課題を考察することができ、それら課題を解決していくための実践的能力の育成を図る。				
評価方法	授業への参加状況（討論への参加、討論内容、受講態度）、レポートをもとに、目標到達度を総合的に評価します。				
備　　考					
ﾃｷｽﾄ・教材・経費等	適宜、資料を配布します。 ▽参考書：適宜、紹介します。				
授業計画	第1回：オリエンテーション　授業計画・達成目標 第2回：近代学校制度の発展 第3回：近代教育思想の展開 第4回：現代教育思想の展開 第5回：学校の役割と機能 第6回：学校と学歴社会 第7回：学校教育と学力問題 第8回：教育と社会階層 第9回：教育と就職・キャリア教育 第10回：教育とジェンダー 第11回：家族と教育 第12回：子どもとメディア 第13回：教育問題と教育言説 第14回：現代教育改革の動向と課題 第15回：まとめ				
学習上（予習・復習）のアドバイス	本講義は学生の参加を強く求めます。文献・資料の収集や分析、討論への参加など、積極的な態度で受講して下さい。				
関連リンク					

時間割番号	2U1003	科目名	教育経営学特論	単 位 数	2
担 当 者					
開講学期	前期	開講年次	1	区分	
概　　要	近年、公立学校を取りまく社会状況は目まぐるしく変化しており、数々の教育改革が実行されつつある。本授業では、現代の教育法制・教育政策に関する問題解決的な学習を行います。				
教育目標との関連	子ども発達教育専攻科の教育目標である「学士課程4年間で学修した小学校教員として必要な知識、技能などの基盤の上に、教育に関する専門的な事項を習得し、教育実践現場における諸課題の解決力を磨く」と関連しています。				
到達目標	大学における教育法規・教育制度の基礎的理解を踏まえて、現代の教育政策・教育改革の動向、及びそれらが学校現場に及ぼす影響を主体的に考察することができる。その上で、改革期の教員として必要となる高度な課題解決能力の育成を図る。				
評価方法	授業への参加状況（討論への参加、討論内容、受講態度）、レポートをもとに、目標到達度を総合的に評価します。				
備　　考					
ﾃｷｽﾄ・教材・経費等	適宜、資料を配布します。 ▽参考書：適宜、紹介します。				
授業計画	第1回：オリエンテーション　授業計画・達成目標 第2回：わが国の教育法体系 第3回：国の教育行政機関と教育政策 第4回：地方教育行政と教育委員会制度 第5回：公立学校制度の意義と役割 第6回：学校評価政策と学校改善 第7回：地域・保護者の学校参加と連携・協力 第8回：学校組織と学校リーダーシップ論 第9回：わが国の教育課程行政 第10回：教育財政のしくみと課題 第11回：学校の財務管理と学校事務職員 第12回：わが国の教員政策 第13回：教員給与政策の動向と課題 第14回：教員評価政策と教員の職能成長 第15回：まとめ　学校改革期の教員				
学習上（予習・復習）のアドバイス	本講義は学生の参加を強く求めます。文献・資料の収集や分析、討論への参加など、積極的な態度で受講して下さい。				
関連リンク					

時間割番号	2U1004	科目名	教育心理学特論	単 位 数	2
担 当 者					
開講学期	前期	開講年次	1	区分	
概　　要	学部で学んだ教育心理学の知識を発展させ、幼児、児童の心身の発達及び学習過程（障害のある、幼児、児童の心身の発達及び学習過程を含む）について発達理論、学習理論、評価理論を理解するとともに、これらの理論から導き出された教授法、教育評価の実践を通して、高度な教育実践力の習得に努める。				
教育目標との関連	子ども発達学科の教育目標である「子どもの発達を多面的、総合的に学び豊かな成長発達を支援・指導するために必要な専門性と実践力の育成」に位置づけられる科目である。				
到達目標	幼児・児童（障害のある幼児・児童を含む）の心身の発達過程を理解し、発達段階に応じた学習支援、人格形成の指導を行うための理論的原理を理解する。具体的には、幼児期・児童期（障害のある幼児・児童を含む）の心身の発達の様相を理解する。次に演習を通して、子ども理解の方法、教授法、評価法の教育技術を実践することで、教師として必要な高度な教育実践力を習得する。				
評価方法	講義では（討論への参加、討論内容、受講態度）、演習では（実践の形態及びレポート）をもとに、目標到達度を総合的に評価する。				
備　　考					
ﾃｷｽﾄ・教材・経費等	教科書：森　敏昭「よくわかる学校教育心理学」ミネルヴァ書房を指定する。 ▽参考書：参考書：発達理論、学習理論、評価理論は第1回の講義日に必読書としてリストで提示する				
授業計画	第1回：教育心理学の目的と対象 第2回：年齢発達の原理と教育 第3回：発達課題と教育 第4回：人間の発達理論一発生的認識論 第5回：幼児の心理 第6回：児童の心理 第7回：発達障害と特別支援教育 第8回：学習の原理（連合理論、観察学習） 第9回：学習と動機づけ 第10回：教授法の演習（1）（指導案作成と模擬授業；発見学習） 第11回：教授法の演習（2）（指導案作成と模擬授業；有意味受容学習） 第12回：教授法の演習（3）（指導案作成と模擬授業；共同学習） 第13回：教育評価と指導　教育評価の意義・役割 第14回：教育測定；テストの作成 第15回：教育評価の実際と指導				
学習上（予習・復習）のアドバイス	予習・復習を行う。				
関連リンク					

時間割番号	2U2002	科目名	発達心理学特論	単 位 数	2
担 当 者					
開講学期	後期	開講年次	1	区分	
概　　要	各発達段階にかかわる発達心理学系の論文を読み、グループディスカッションを通じて理解を深める。さらに、保育・教育現場が抱える課題に対して学びをどのように活かしていくかについても考察し、実践への橋渡しとする。				
教育目標との関連	子ども発達教育専攻科の教育目標である「学士課程4年間で学修した小学校教員として必要な知識、技能などの基盤の上に、教育に関する専門的な事項を習得し、教育実践現場における諸課題の解決力を磨く」と関連しています。				
到達目標	胎生期から老年期までの心身発達について、学部段階で学んだ知識やこれまでの実践経験をもとに理解を深め、より専門性の高い知識及び実践力の育成を目指す。到達目標は次の3つである。 1. 発達心理学系の論文を講読し各発達段階にかかわる知見を整理できる 2. 各発達段階に特徴的な課題について発達心理学的観点から考察することができる 3. 授業での学びを保育・教育現場での具体的な対応へつなげようとする姿勢がみられる				
評価方法	授業への参加状況（討論への参加・受講態度）（30%）、討論内容（30%）、発表資料（40%）をもとに、目標到達度を総合的に評価する。				
備　　考					
ﾃｷｽﾄ・教材・経費等	主として発表者が作成した資料を使用する。 ▽参考書：参考書・参考資料等は適宜紹介する。				
授業計画	第1回：オリエンテーション―発達の原理 第2回：からだと運動の発達 第3回：記憶の発達 第4回：感覚と知覚の発達 第5回：認知と思考の発達 第6回：概念の発達 第7回：言葉の発達 第8回：遊びの発達 第9回：自己の発達 第10回：情動の発達 第11回：社会性の発達 第12回：対人関係の発達 第13回：道徳性と向社会的行動の発達 第14回：発達のつまづきと支援 第15回：まとめ				
学習上（予習・復習）のアドバイス	授業時に適宜指示します。				
関連リンク					

時間割番号	2U1005	科目名	教育課程特論	単 位 数	2
担 当 者					
開講学期	前期	開講年次	1	区分	
概　　要	学士課程で学修した基本的な知識や技能の上に、教育課程（カリキュラム）や授業のデザイナーとして求められる知識、理解、スキルを磨くことを通して、教師としての実践力の更なる向上を目指したい。				
教育目標との関連	子ども発達教育専攻科の教育目標である「学士課程4年間で学修した小学校教員として必要な知識、技能などの基盤の上に、教育に関する専門的な事項を習得し、教育実践現場における諸課題の解決力を磨く」に関連しています。				
到達目標	○教育課程（カリキュラム）をデザインする視点をもつ。 ○教育課程（カリキュラム）デザインについて理解する。 ○教育課程（カリキュラム）をデザインできるスキルを磨く。 ○教育課程（カリキュラム）をめぐる課題について考える。				
評価方法	授業や適宜設定する課題への取り組み（60%）とレポート（40%）により、総合的に評価します。				
備　　考					
ﾃｷｽﾄ・教材・経費等	毎時間、資料を配布します。 ▽参考書：適宜、指示します。				
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：カリキュラムの諸相（1）計画としてのカリキュラム 第3回：カリキュラムの諸相（2）履歴としてのカリキュラム 第4回：カリキュラムの諸相（3）学校文化としてのカリキュラム 第5回：カリキュラムデザイン（1）デザインの方法 第6回：カリキュラムデザイン（2）学習指導要領のカリキュラム観 第7回：カリキュラムデザイン（3）学力モデルの模索 第8回：授業デザイン（1）デザインの方法 第9回：授業デザイン（2）展開過程の分析 第10回：授業デザイン（3）評価の方法 第11回：総合的学習の探求（1）キャリア教育 第12回：総合的学習の探求（2）シティズンシップ教育 第13回：総合的学習の探求（3）国際理解教育 第14回：総合的学習の探求（4）いのちの教育 第15回：まとめ				
学習上（予習・復習）のアドバイス	授業の中で適宜、次回に向けての課題を提示します。				
関連リンク					

時間割番号	2U2003	科目名	特別支援教育特論	単 位 数	2
担 当 者					
開講学期	後期	開講年次	1	区分	
概　　要	具体的な支援や、保護者や関係機関との連携、将来を見据えた支援についても、基本的な事項からより専門的な知識について説明する。特別支援教育に必要なより専門的な知識と心構えについて述べる。				
教育目標との関連	子ども発達教育専攻科の教育目標である「学士課程4年間で学修した小学校教員として必要な知識、技能などの基盤の上に、教育に関する専門的な事項を習得し、教育実践現場における諸課題の解決力を磨く」と関連しています。				
到達目標	○ 発達障害に関わる基礎的な知識をもち、具体的な対応方法・指導方法等を理解すること。 ○ これまでの学校でのボランティアや教育実習等を通して得た子供たちと接する機会を踏まえ、特別な支援を要する子供への支援の在り方を、演習を通して学ぶ。 ○ 特別支援教育に関わる国の動向や広島県の施策等に触れ、特別支援教育の考え方を理解する。				
評価方法	授業への参加状況（討論への参加、討論内容、受講態度）、定期試験をもとに、目標到達度を総合的に評価する。				
備　　考					
ﾃｷｽﾄ・教材・経費等	はじめての特別支援教育（有斐閣アルマ） ▽参考書：適宜、指示する。				
授業計画	第1回：特別支援教育の理念と基本的な考え 第2回：特別支援教育の歴史と現行制度 第3回：支援システムの構築と法的整備 第4回：特別支援教育コーディネーター 第5回：個別の指導計画と個別の教育支援計画 第6回：学習障害・注意欠陥多動性障害の理解と指導・支援 第7回：自閉症・情緒障害の理解と指導・支援 第8回：知的障害の理解と指導・支援 第9回：肢体不自由・病弱・身体虚弱・重複障害の理解と指導・支援 第10回：視覚障害・聴覚障害・言語障害の理解と指導・支援 第11回：その他の多様な状態を併せもつ子どもの理解と指導・支援 第12回：保護者との連携 第13回：専門機関や地域との連携 第14回：早期発見・早期支援と連携 第15回：進学支援・就労支援と連携 定期試験				
学習上（予習・復習）のアドバイス	授業に関連する資料については、授業において配布する				
関連リンク					

時間割番号	2U2004	科目名	生徒指導特論	単 位 数	2
担 当 者					
開講学期	後期	開講年次	1	区分	
概　　要	大学学部での生徒指導の理解を推し進め、現在、広島市で行われている包括的アプローチによる生徒指導法の理解と実践を行う。具体的には学校適応のアセスメントの演習を行う。続いて、アセスメントに応じた支援プログラムの演習を行う。特に、協同学習演習、グループ・カウセリング演習を行う。小学校おける生徒指導のケース研究を行う。				
教育目標との関連	子ども発達教育専攻科の教育目標である「学士課程4年間で学修した小学校教員として必要な知識、技能などの基盤の上に、教育に関する専門的な事項を習得し、教育実践現場における諸課題の解決力を磨く」と関連しています。				
到達目標	「生徒指導提要」（文部科学省、2010）の完全理解を第1の教育目標とし、時代に即した小学校段階～高校段階までのそれぞれの年齢段階、校種で求められる生徒指導の理論・考え方や実際の指導方法を習得、学校現場での生徒指導の実践力の育成に重点を置いた指導を行う。この目的を達成するため、学校における生徒指導を学校適応のｱｾｽﾒﾝﾄに基づく児童・生徒のニーズに応じた支援という観点から行う。				
評価方法	第1にアセスメント（学校環境適応間尺度テスト）の完全な資料の整理、分析ができること。 第2に、この尺度結果に応じて、具体的対応（指導法）を明らかにすることができる。 第3にアセスを用いて、校内研修会のリーダの役割を果たせるようになる。				
備　　考					
ﾃｷｽﾄ・教材・経費等	石井　眞治　「児童・生徒のための学校環境適応ガイドブック」協同出版生徒指導提要（文部科学省） ▽参考書：適宜、指示する。				
授業計画	第１回：生徒指導提要に基づく新しい生徒指導のありかた(発表・討議） 第２回：小学校における学校適応の今日的課題（小1プロブレム等） 第３回：中学校における学校適応の今日的課題（中１ギャップ等） 第４回：学校適応の特徴と構造 第５回：学校適応と適応感 第６回：学校適応のアセスメント（資料収集） 第７回：学校適応のアセスメント（分析・解釈・診断） 第８回：協同学習の演習 第９回：ライフ・スキル・トレイニングの演習 第１０回：ピア・サポート・トレイニングの演習 第１１回：グループ活動指導の演習 第１２回：小学校における生徒指導演習 第１３回：中学校における生徒指導演習 第１４回：特別支援学校における生徒指導演習 第１５回：総括				
学習上（予習・復習）のアドバイス	理論に基づく相談技術の修得に留意してください。				
関連リンク					

時間割番号	2U1006	科目名	国語科学習指導実践演習Ⅰ	単 位 数	2
担 当 者					
開講学期	前期	開講年次	1	区分	
概　　要	本授業は、受講生各自による選択を前提にして、各自が選んだ種類、分野の教材について、教材研究、カリキュラム編成研究、教材開発にかかわる研究の結果を発表し、全体で討議、検討し、学習を深めることを基本とします。				
教育目標との関連	子ども発達教育専攻科の教育目標である「学士課程4年間で学修した小学校教員として必要な知識、技能などの基盤の上に、教育に関する専門的な事項を習得し、教育実践現場における諸課題の解決力を磨く」と関連しています。				
到達目標	教科の授業の基礎･基本となるのは教材研究です。検定教科書に収録された個々の教材の研究を始めとして、複数教材、単元によって構成されるカリキュラムの研究、さらには新しい教材開発、カリキュラムの開発にかかわる能力は、国語科の質的向上の実現に不可欠です。本授業では国語科の教材、単元、カリキュラム研究と創造の能力を育成し、国語科教育の授業実践、授業改善にかかわる能力を育成することを目指します。				
評価方法	授業への参加状況（討論への参加、討論内容、受講態度）、レポート、定期試験をもとに、目標到達度を総合的に評価します。				
備　　考					
ﾃｷｽﾄ･教材･経費等	学科指定のクリアファイル（20ポケット） 資料は演習の進行過程で適宜紹介します。 ▽参考書：多くの参考書を使用するので、演習担当の際に必要な文献を指示するとともに、プリントを多用します。				
授業計画	第1回：国語科教材の全容、国語科教材研究にかかわる基本的問題の概観 (1)教材研究の意義、目標 第2回：国語科教材の全容、国語科教材研究にかかわる基本的問題の概観 (2)教材研究方法の概観 第3回：国語科の単元の特徴の理解と検討 (1)教科書研究 第4回：国語科の単元の特徴の理解と検討 (2)学習指導要領研究 第5回：国語科「読むこと」領域の教材研究 (1)説明的文章教材の研究　その歴史と課題 第6回：国語科「読むこと」領域の教材研究 (2)特定の教材にかかわる教材研究の演習 第7回：国語科「読むこと」領域の教材研究 (3)文学的文章教材の研究　その歴史と課題 第8回：国語科「読むこと」領域の教材研究 (4)特定の文学教材にかかわる教材研究演習 第9回：国語科「書くこと」領域の教材研究 (1)作文(散文) 教材の研究　その歴史と課題 第10回：国語科「書くこと」領域の教材研究 (2)特定の作文(散文)教材の研究、教材開発の演習 第11回：国語科「書くこと」領域の教材研究 (3)児童詩教材の研究　その歴史と課題 第12回：国語科「書くこと」領域の教材研究 (4)特定の児童詩教材の研究、教材開発の演習 第13回：国語科「話すこと･聞くこと」領域の教材研究 (1)話し言葉教材の研究、その歴史と課題 第14回：国語科「話すこと･聞くこと」領域の教材研究 (2)特定の話し言葉教材の研究、教材開発 第15回：演習のまとめと残された問題の確認 定期試験				
学習上（予習･復習）のアドバイス	配付する国語科各分野に関する専門的な資料（論文）に目を通し、問題意識を持って授業に臨むこと。また、授業後は、再度資料を読み直し、正確な理解を心がけること。				
関連リンク					

時間割番号	2U2005	科目名	国語科学習指導実践演習Ⅱ	単 位 数	2
担 当 者					
開講学期	後期	開講年次	1	区分	
概　　要	国語科の「読むこと」領域には、教科の授業実践のうちで、最大の時間が配分されます。まず、この最も多くの時間を占める領域における授業実践事例の分析、検討に取り組み、授業研究の方法を身に付けるとともに、さらに、他の諸領域、事項についても、代表的と思われる事例を取り上げ、分析、検討の実践を行います。				
教育目標との関連	子ども発達教育専攻科の教育目標である「学士課程4年間で学修した小学校教員として必要な知識、技能などの基盤の上に、教育に関する専門的な事項を習得し、教育実践現場における諸課題の解決力を磨く」と関連しています。				
到達目標	国語科学習指導実践演習Ⅰにおいて，国語科授業の基礎･基本となる教材，単元，カリキュラムの研究と開発における現状と問題を理解したことを踏まえ，本演習では，それに基づいて，実際の授業実践の質を向上するために，他者による授業実践を分析し，自らの授業構想力，さらには実践能力を習得することを目指します。				
評価方法	授業への参加状況（討論への参加、討論内容、受講態度）、レポート、定期試験をもとに、目標到達度を総合的に評価します。				
備　　考					
ﾃｷｽﾄ･教材･経費等	学科指定のクリアファイル（20ポケット） なお、演習内容が多岐にわたるため、資料については特定のものは使用しません。必要な文献、資料については、演習の進行過程、担当者の必要性に応じて、その都度紹介します。 ▽参考書：適宜、指示します。				
授業計画	第1回：国語科授業研究の歴史と現状 (1)基本的文献の概観　読むこと（文学教育、説明的文 教育）領域の場合 第2回：国語科授業研究の歴史と現状 (2)基本的文献の概観　書くこと、話すこと･聞くこと、国語文化・言語事項の諸領域、事項の場合 第3回：国語科授業研究の歴史と現状 (3)主要な教材研究理論の紹介と検討 第4回：担当領域、授業事例の選択と分析・検討の準備 (1)読むこと領域担当者による活動の発表 検討および助言 第5回：担当領域、授業事例の選択と分析・検討の準備 (2)話すこと・聞くこと、国語文化･言語事項の諸領域、事項担当者による活動の発表と検討および助言 第6回：国語科授業研究の実践 (1)受講生による発表、質疑　文学教材の実践事例① 散文（物語等）教材 第7回：国語科授業研究の実践 (2) 〃 文学教材の実践事例② 詩歌教材 第8回：国語科授業研究の実践 (3) 〃 説明的文章教材の実践事例① 説明文教材 第9回：国語科授業研究の実践 (4) 〃 説明的文章教材の実践事例② 論説文系教材 第10回：国語科授業研究の実践 (5) 〃 作文教材の実践事例 第11回：国語科授業研究の実践 (6) 〃 児童詩教材の実践事例 第12回：国語科授業研究の実践 (7) 〃 話し言葉教材の実践事例 第13回：国語科授業研究の実践 (8) 〃 伝統的な国語文化と国語の特質に関する事項にかかわる教材の実践事例ー国語文化に関わる教材の場合 第14回：国語科授業研究の実践 (9) 〃 伝統的な国語文化と国語の特質に関する事項にかかわる教材の実践事例ー言語事項（文法、語句、文字等）教材の場合 第15回：本演習全体の振り返りと今後の課題 定期試験				
学習上（予習･復習）のアドバイス	言葉の教育実践とその研究の水準を理科し、自らの実践力を高めるために、提示する資料について、予め分析し、自らの意見を用意して授業に臨むこと。				
関連リンク					

時間割番号	2U1007	科目名	算数科学習指導実践演習Ⅰ	単 位 数	2
担 当 者					
開講学期	前期	開講年次	1	区分	
概　　要	算数教育において算数的活動は重要です。特に、新学習指導要領算数科編では各学年に算数的活動の内容が例示されています。本授業では算数的活動を生かした教材開発研究を行います。その際，教育現場では，教科書を使って授業が行われている現状から，教科書教材を活用した開発研究を行い，子どもが夢中になるおもしろい授業づくりを研究します。				
教育目標との関連	子ども発達教育専攻科の教育目標である「学士課程4年間で学修した小学校教員として必要な知識、技能などの基盤の上に、教育に関する専門的な事項を習得し、教育実践現場における諸課題の解決力を磨く」と関連しています。				
到達目標	・算数的活動を生かした教材開発研究　高度な実践力を目指し教科と関連するために、算数的活動を生かした教材開発を次の観点から行います。 (1)教科書が取り上げている教材等の意図の研究 (2)算数のおもしろさを実感する教科書教材の開発				
評価方法	授業への参加状況（討論への参加、討論内容、受講態度）（20%）、レポート（30%）、定期試験（50%）をもとに、目標到達度を総合的に評価します。				
備　　考					
ﾃｷｽﾄ・教材・経費等	「10の視点で授業が変わる！算数教科書」 東洋館出版社　クリアファイル（授業資料整理用） ▽参考書：適宜、指示します。				
授業計画	第1回：授業の目標と授業計画の概要 第2回：教科書教材開発10の視点 第3回：算数の楽しさを実感する教科書教材開発の事例研究（1）低学年 第4回：算数の楽しさを実感する教科書教材開発の事例研究（2）中学年 第5回：算数の楽しさを実感する教科書教材開発の事例研究（3）高学年 第6回：算数的活動を通した算数のおもしろさを実感する教科書教材開発Ⅰ 第7回：受講者の開発事例の発表と討議 第8回：創造力を働かせるための教科書教材のアレンジ 第9回：計算したくなる意欲を引き出すための教科書教材のアレンジ 第10回：概念形成を豊かにするたねの教科書教材のアレンジ 第11回：目的意識をもち，主体的に授業に参加するための教科書教材アレンジ 第12回：既習を活用するようにするための教科書教材アレンジ 第13回：算数的活動を通した算数のおもしろさを実感する教科書教材開発Ⅱ 第14回：受講者の開発事例の発表と討議 第15回：教材開発研究のまとめ（レポート作成）				
学習上（予習・復習）のアドバイス	事前に指定されたテキストの箇所を予習し、どのような教材を開発していこうかと考え積極的に取り組むこと。				
関連リンク					

時間割番号	2U2006	科目名	算数科学習指導実践演習Ⅱ	単 位 数	2
担 当 者					
開講学期	後期	開講年次	1	区分	
概　　要	算数教育において算数的活動は重要である。特に、新学習指導要領算数科編では各学年に算数的活動の内容が例示されている。本授業では算数科学習指導実践演習Ⅰを基に算数的活動を生かした教材開発研究を行う。 (1)「表現力の有用性を実感する」教材開発事例及び「関数的思考力を伸ばす」教材開発事例を、文献に基づいて研究する。 (2)(1)の研究結果を基に教材開発研究を行う。				
教育目標との関連	子ども発達教育専攻科の教育目標である「学士課程4年間で学修した小学校教員として必要な知識、技能などの基盤の上に、教育に関する専門的な事項を習得し、教育実践現場における諸課題の解決力を磨く」と関連しています。				
到達目標	・算数科学習指導実践演習Ⅰを基に算数的活動を生かした教材開発研究を進める高度な教育を目指し教科と関連するために、算数的活動を生かした教材開発を次の観点から行う。 (1)表現力の有用性を実感する (2)関数的思考力を伸ばす				
評価方法	授業への参加状況(討論への参加、討論内容、受講態度)(20%)、レポート(30%)、定期試験(50%)をもとに、目標到達度を総合的に評価する。				
備　　考					
ﾃｷｽﾄ・教材・経費等	「表現力を育成する新算数科教材開発6年」明治図書　クリアファイル(授業資料整理用 ▽参考書:適宜、指示する。				
授業計画	第1回:授業の目標と授業計画の概要 第2回:表現力の有用性を実感する指標の考察 第3回:表現力の有用性を実感する教材開発の事例研究(1)操作的表現 第4回:表現力の有用性を実感する教材開発の事例研究(2)図的表現 第5回:表現力の有用性を実感する教材開発の事例研究(3)記号的表現 第6回:算数的活動を通した表現力の有用性を実感する教材開発 第7回:受講者の開発事例の発表と討議 第8回:関数的思考力を伸ばす指標の考察 第9回:関数的思考力を伸ばす指標の事例研究(1)表 第10回:関数的思考力を伸ばす指標の事例研究(2)式・グラフ 第11回:関数的思考力を伸ばす指標の事例研究(3)比例 第12回:関数的思考力を伸ばす指標の事例研究(4)反比例 第13回:関数的思考力を伸ばす教材開発 第14回:受講者の開発事例の発表と討議 第15回:教材開発研究のまとめ(レポート作成)				
学習上(予習・復習)のアドバイス	テキストと小学校算数教科書と対比しながら、教材の特徴を事前に把握して、授業に参加すること。				
関連リンク					

時間割番号	2U1008	科目名	理科学習指導実践演習Ⅰ	単 位 数	2
担 当 者					
開講学期	前期	開講年次	1	区分	
概　　要	理科の学習指導における単元の意義、系統的な教材の配置、児童の実態などをもとにした指導のあり方を検討するとともに、その評価方法について考察することにより、学習指導案の立案から授業実践、評価までの一連の活動を省察する。				
教育目標との関連	子ども発達教育専攻科の教育目標である「学士課程4年間で学修した小学校教員として必要な知識、技能などの基盤の上に、教育に関する専門的な事項を習得し、教育実践現場における諸課題の解決力を磨く」と関連しています。				
到達目標	・理科学習における、教材観、児童観、指導観が有機的に関連した単元設定の理由、及び学習指導や評価計画について、より実態に即した実践力の向上を図る。 ・授業実践により、授業計画の課題や実践で明らかとなった諸問題と改善方法を指摘することができる。				
評価方法	定期試験（50%）、学習指導案（20%）、実践授業（20%）、レポート（10%）をもとに、目標到達度を総合的に評価する。				
備　　考					
ﾃｷｽﾄ・教材・経費等	テキスト：小学校学習指導要領解説理科編（文部科学省） ▽参考書：小学校理科教科書				
授業計画	第1回：理科の目標と単元の配置 第2回：単元設定の理由（1）～学ぶ意義と教材観 第3回：単元設定の理由（2）～学習者の実態と児童観 第4回：単元設定の理由（3）～授業の工夫と指導観 第5回：単元の目標と指導計画 第6回：指導過程の概略とその評価 第7回：学習指導案の作成（1）～導入における指導 第8回：学習指導案の作成（2）～観察、実験における指導と支援 第9回：学習指導案の作成（3）～観察、実験結果をふまえた科学的思考力の育成 第10回：授業実践 第11回：授業検討（1）指導計画とその実際 第12回：授業検討（2）児童の反応と指導者の活動 第13回：授業検討（3）指導と評価の一体化 第14回：授業検討（4）改善方法とその実際 第15回：諸外国の理科教育とこれからの理科教育 定期試験				
学習上（予習・復習）のアドバイス	各回の復習として「小課題レポート」に積極的に取り組むとよいでしょう。配付資料等を確認し、また授業で紹介する参考文献を熟読し、講義内容の再確認をしておいて下さい。				
関連リンク					

時間割番号	2U2007	科目名	理科学習指導実践演習Ⅱ	単 位 数	2
担 当 者					
開講学期	後期	開講年次	1	区分	
概　　要	理科の学習指導における単元の意義に基づき、身のまわりの自然事象を教材化すべく、学習者の発達段階に応じて事象を取り出し教材として再構成する。また、開発した教材を児童に提示し、その反応をもとに教材の効果と課題を検討する。				
教育目標との関連	子ども発達教育専攻科の教育目標である「学士課程4年間で学修した小学校教員として必要な知識、技能などの基盤の上に、教育に関する専門的な事項を習得し、教育実践現場における諸課題の解決力を磨く」と関連しています。				
到達目標	身近な自然の中から小学校理科の教材として活用できる事象を抽出し、それらを基軸に据えた発問、観察・実験を構成できる実践力の育成を図る。				
評価方法	定期試験(30%)、学習指導案(20%)、実践授業(10%)、教材開発(40%)をもとに、目標到達度を総合的に評価する。				
備　　考					
ﾃｷｽﾄ・教材・経費等	テキスト：小学校学習指導要領解説理科編（文部科学省） ▽参考書：小学校理科教科書、中学校理科教科書、高等学校理科（物、化、生、地）教科書				
授業計画	第1回：理科の目標と教材 第2回：中学校理科における観察、実験教材 第3回：高等学校理科における観察、実験教材 第4回：自然から抽出した教材（1）～内容区分「A物質」について 第5回：自然から抽出した教材（2）～内容区分「Aエネルギー」について 第6回：自然から抽出した教材（3）～内容区分「B生命」について 第7回：自然から抽出した教材（4）～内容区分「B地球」について 第8回：身近な自然事象とその教材化（1）～教材製作 第9回：身近な自然事象とその教材化（2）～予備観察、実験 第10回：開発した教材を用いた学習指導案の作成 第11回：学習指導案の検討と再構成 第12回：授業実践 第13回：教材の効果と課題の検討（1）～教材と学習内容 第14回：教材の効果と課題の検討（2）～児童の反応 第15回：他教科の教材と理科教育 定期試験				
学習上（予習・復習）のアドバイス	教材の開発にあたっては、自ら小学校理科の学習内容全般にわたる総まとめを行いながら、授業時間外にも予備実験・観察を重ねることが大事です。				
関連リンク					

時間割番号	2U1009	科目名	社会科学習指導実践演習	単 位 数	2
担 当 者					
開講学期	前期	開講年次	1	区分	
概　　要	本授業は、①小学校社会科の優れた学習指導事例（地域学習、産業学習、歴史学習、国際理解学習など）の分析及び理論の抽出、②抽出した理論に基づく授業開発、③開発した授業計画の模擬授業という構成で進める。この実践演習を通して、社会科の授業が分かる、社会科授業を作ることができる、社会科授業を実践することのできる力の育成を目指す。				
教育目標との関連	子ども発達教育専攻科の教育目標である「学士課程4年間で学修した小学校教員として必要な知識、技能などの基盤の上に、教育に関する専門的な事項を習得し、教育実践現場における諸課題の解決力を磨く」と関連しています。				
到達目標	大学における「社会」及び「社会科教育法」の学修を基礎とし、授業実践事例の分析及び授業理論の抽出、授業開発、模擬授業を通して、社会科の学習指導に必要とされる高度な授業分析力、授業開発力、実践的指導力の育成を図る。				
評価方法	授業への参加状況（討論への参加、討論内容、受講態度）、レポートをもとに、目標到達度を総合的に評価する。				
備　　考					
ﾃｷｽﾄ・教材・経費等	その都度指示する。 ▽参考書：適宜、指示する。				
授業計画	第1回：オリエンテーション：授業科目の概要と計画の紹介 第2回：小学校社会科における授業研究方法論 第3回：小学校社会科における授業分析（1）地域学習 第4回：小学校社会科における授業分析（2）産業学習 第5回：小学校社会科における授業分析（3）歴史学習 第6回：小学校社会科における授業分析（4）国際理解学習 第7回：小学校社会科における授業事例の理論化（1）単元構成、教材構成 第8回：小学校社会科における授業事例の理論化（2）授業構成、学習指導 第9回：小学校社会科における授業開発（1）教材研究（グループ別） 第10回：小学校社会科における授業開発（2）発表検討 第11回：小学校社会科における授業開発（3）修正改善 第12回：模擬授業（1）小学校第3・4学年の内容 第13回：模擬授業（2）小学校第5学年及び第6学年の内容 第14回：まとめ（1）模擬授業（第3・4学年の内容）の結果をふまえた2次案発表と討議 第15回：まとめ（2）模擬授業（第5学年及び第6学年の内容）の結果をふまえた2次案発表と討議				
学習上（予習・復習）のアドバイス	本授業では各回、理論及び実践演習に関するレポート作成を課します。この課題に研究的に取り組むことが社会科授業が分かる、社会科授業を作る、社会科授業を実践することのできる力を高めることにつながります。主体的な取り組みを期待します。				
関連リンク					

時間割番号	2U2008	科目名	生活科学習指導実践演習	単 位 数	2
担 当 者					
開講学期	後期	開講年次	1	区分	
概　　要	本授業は、①生活科・総合的な学習の学習指導事例の分析と理論の抽出　②抽出した理論に基づく授業開発　③開発した授業計画の模擬授業という構成で進める。この実践演習を通して、優れた生活科・総合的な学習の授業が分かり、授業を作ることができ、授業を実践することのできる力をつけることを目指している。				
教育目標との関連	子ども発達教育専攻科の教育目標である「学士課程4年間で学修した小学校教員として必要な知識、技能などの基盤の上に、教育に関する専門的な事項を習得し、教育実践現場における諸課題の解決力を磨く」と関連しています。				
到達目標	大学の「生活」「生活科教育法」の学修を基礎とし、生活科・総合的な学習の授業分析により理論を抽出し、その理論に基づいた授業開発を行うことを通して、学習指導に必要とされる高度な授業分析力・授業開発力・実践的指導力の育成を図る。				
評価方法	授業への参加状況（討論への参加、討論内容、受講態度）、レポートをもとに、目標到達度を総合的に評価する。				
備　　考					
ﾃｷｽﾄ・教材・経費等	その都度指示する。 ▽参考書：適宜、指示する。				
授業計画	第1回：オリエンテーション：授業科目の概要と計画の紹介 第2回：生活科・総合的な学習における指導と評価の理論（1）ー理念、目標、カリキュラム 第3回：生活科・総合的な学習における指導と評価の理論（2）ー指導と評価の考え方 第4回：生活科・総合的な学習における授業分析と考察（1）ー人々・社会とのかかわり 第5回：生活科・総合的な学習における授業分析と考察（2）ー自然とのかかわり 第6回：生活科・総合的な学習における授業分析と考察（3）ー自分とのかかわり 第7回：生活科・総合的な学習における授業事例の理論化（1）ー単元構成・学習材 第8回：生活科・総合的な学習における授業事例の理論化（2）ー授業構成・学習指導 第9回：生活科・総合的な学習における授業開発（1）ー教材研究（グループ別） 第10回：生活科・総合的な学習における授業開発（2）ー発表検討 第11回：生活科・総合的な学習における授業開発（3）ー修正改善 第12回：模擬授業（1）小学校2年生を想定した模擬授業及び観察・評価 第13回：模擬授業（2）小学校1年生における「生活科を中核とした合科的な単元」の模擬授業及び観察・評価 第14回：まとめ（1）模擬授業（小学校2年生を想定）の結果をふまえた2次案発表と討議 第15回：まとめ（2）模擬授業（生活科を中核とした合科的な単元）の結果をふまえた2次案発表と討議				
学習上（予習・復習）のアドバイス	本授業では各回、理論及び実践演習に関するレポート作成を課します。この課題に研究的に取り組むことが生活科・総合的な学習の授業が分かり、授業を作ることができ、授業を実践することのできる力を高めることにつながります。主体的な取り組みを期待します				
関連リンク					

時間割番号	2U1010	科目名	音楽学習指導実践演習	単 位 数	2
担 当 者					
開講学期	前期	開講年次	1	区分	
概　　要	本授業では、第一に、実際に学校現場に出向き、ベテランの音楽教師による授業参観および協議会を行うことをとおし、音楽科授業に関する理解をさらに深める。第二に、我が国の優れた音楽学習理論（例えば「二本立て方式」、「ふしづくり一本道」など）について学ぶ。第三に、学校現場における授業を《計画・実践・反省》し、実践的指導能力の向上を図る。				
教育目標との関連	子ども発達教育専攻科の教育目標である「学士課程4年間で学修した小学校教員として必要な知識、技能などの基盤の上に、教育に関する専門的な事項を習得し、教育実践現場における諸課題の解決力を磨く」と関連しています。				
到達目標	「音楽学習における実践的指導能力の向上を図る」 〇　音楽学習指導に関する視野をさらに広げるとともに、確かな音楽学習理論を実践に活用することができる。 〇　音楽に関する児童の実態を深く理解し、実践方法の探求に努め、より望ましい実践的指導力を身につけることができる。				
評価方法	授業への参加状況（討論への参加、討論内容、受講態度）、レポートをもとに、目標到達度を総合的に評価する。				
備　　考					
ﾃｷｽﾄ・教材・経費等	『小学校音楽科教育法－学力の構築をめざして－』吉富功修編著・ふくろう出版 ▽参考書：小学校音楽科教科書、指導書、鑑賞用CD、学習指導要領解説音楽編(文部科学省)等				
授業計画	第1回：オリエンテーション、授業参観計画 第2回：音楽科授業参観に関する事前学習 第3回：音楽科授業参観 第4回：音楽科授業参観に関する事後学習 第5回：音楽学習理論について（1）－「二本立て方式」と音楽能力の育成－ 第6回：音楽学習理論について（2）－「ふしづくり一本道」と音楽能力の育成－ 第7回：授業実践のための音楽科学習指導案作成（1）―単元計画・指導目標・指導計画・題材間観― 第8回：授業実践のための音楽科学習指導案作成（2）―指導過程― 第9回：音楽科学習指導案事前検討会（1）―指導案の協議― 第10回：音楽科学習指導案事前検討会（2）―修正指導案の協議― 第11回：音楽科授業実践（1）―低学年の授業実践― 第12回：授業反省会（1）―低学年の授業実践― 第13回：音楽科授業実践（2）―中学年の授業実践― 第14回：授業反省会（2）―中学年の授業実践― 第15回：総括討議				
学習上（予習・復習）のアドバイス	常に高い問題意識をもち、探究すること。与えられた課題は責任をもって取り組むこと。				
関連リンク					

時間割番号	2U2009	科目名	図画工作学習指導実践演習	単 位 数	2
担 当 者					
開講学期	後期	開講年次	1	区分	
概　　要	「美術の教育」と「美術による教育」をキーワードに、感性、知性、技能と美術教育の関係を確認しつつ、「みる・かく・つくる」活動の視点からこの教科の人間力形成や現代的課題解決への可能性を検討します。				
教育目標との関連	子ども発達教育専攻科の教育目標である「学士課程4年間で学修した小学校教員として必要な知識、技能などの基盤の上に、教育に関する専門的な事項を習得し、教育実践現場における諸課題の解決力を磨く」と関連しています。				
到達目標	大学における卒業研究あるいは実践経験等の成果と課題をふまえ、教育・保育現場が抱える美術教育上の様々な現代的課題を把握し、その解決の方途を探究することで、教師として求められる高度な実践的能力の向上を図ります。				
評価方法	授業への参加状況〈討論への参加、討論内容、受講態度〉(30%)、レポート(30%)、をもとに、目標到達度(40%)を総合的に評価します。				
備　　考					
ﾃｷｽﾄ・教材・経費等	その都度、紹介します。 ▽参考書:適宜、指示します。				
授業計画	第1回:オリエンテーション／授業計画等 第2回:美術教育の意味確認1／あらためて“美術(アート)”のことを考えます 第3回:美術教育の意味確認2／あらためて“美術教育”のことを考えます 第4回:美術教育の意味確認3／美術教育における不易と流行の課題について再検討します 第5回:美術教育の現状と課題1／小学校学習指導要領，幼稚園教育要領及び保育指針等を再読します 第6回:美術教育の現状と課題2／小学校図画工作科教科書等の資料を再検討します 第7回:美術教育の現状と課題3／具体的実践事例(教育現場)を検討します 第8回:美術教育の現状と課題4／具体的実践事例(保育現場)を検討します 第9回:美術教育の展望1／あらためて「3H美術教育」について考えます 第10回:美術教育の展望2／あらためて「3H美術教育」を創る6要件について検討します 第11回:美術教育の展望3／あらためて「美術の教育」と「美術による教育」について検討します 第12回:美術教育の展開1／表現(心象表現、目的表現、造形遊び)の指導について再検討します 第13回:美術教育の展開2／鑑賞の指導について再検討します 第14回:美術教育の展開3／評価のあり方を再検討します 第15回:総括／みる・かく・つくると人間形成の関係を再検討します				
学習上(予習・復習)のアドバイス	本授業ではおおよそ毎回、「理論と実践」にかかわるレポートを課します。この課題に精一杯取り組むことがおのずと授業の予習・復習になるよう授業内容も組織していきます。精一杯の取り組みを要求します。なお、当然のことながら一連の活動への取り組み姿勢が評価の際、最も大きな要素になることを申し添えておきます。				
関連リンク					

時間割番号	2U1011	科目名	体育学習指導実践演習	単 位 数	2
担 当 者					
開講学期	前期	開講年次	1	区分	
概　　要	新小学校学習指導要領を踏まえ、小学校体育科において、目標・内容・方法・評価に一貫性のある授業を実践するために必要となるポイントについての理解を深化させます。また、学習指導案作りと模擬授業を通して、高度な実践的指導力の育成を図ります。				
教育目標との関連	子ども発達教育専攻科の教育目標である「学士課程4年間で学修した小学校教員として必要な知識、技能などの基盤の上に、教育に関する専門的な事項を習得し、教育実践現場における諸課題の解決力を磨く」と関連しています。				
到達目標	新小学校学習指導要領を踏まえ、小学校体育科の授業実践に必要となる理解を深化させるとともに、小学校体育科授業の構想・設計に必要な知識を幅広く修得します。これらの学修を通して高度な実践的指導力の育成を図ります。				
評価方法	学習指導案（30%）、模擬授業実践（30%）、定期試験（30%）及び授業内での取り組み状況（10%）をもとに、目標到達度を総合的に評価する。				
備　　考	実習用ジャージ及び体育館用シューズを用意してください。				
ﾃｷｽﾄ・教材・経費等	テキスト：小学校学習指導要領解説体育編（文部科学省） ▽参考書：参考書：「平成23年度版 観点別学習状況の評価規準と判定基準 小学校体育」、北尾倫彦監修、「新版初等体育科教育の研究」、徳永隆治他編				
授業計画	第1回：ガイダンス（授業計画、到達目標及び受講上の心構えについて） 第2回：小学校学習指導要領における目的・目標及び評価方法 第3回：1、2年生の学習内容と運動領域別目標 第4回：体育科授業実践（1、2年生）①（学習指導案作成） 第5回：体育科授業実践（1、2年生）②（教材研究） 第6回：体育科授業実践（1、2年生）③（模擬授業の実践） 第7回：3、4年生の学習内容と運動領域別目標 第8回：体育科授業実践（3、4年生）①（学習指導案作成） 第9回：体育科授業実践（3、4年生）②（教材研究） 第10回：体育科授業実践（3、4年生）③（模擬授業の実践） 第11回：5、6年生の学習内容と運動領域別目標 第12回：体育科授業実践（5、6年生）①（学習指導案作成） 第13回：体育科授業実践（5、6年生）②（教材研究） 第14回：体育科授業実践（5、6年生）③（模擬授業の実践） 第15回：まとめ 定期試験				
学習上（予習・復習）のアドバイス	小学校体育科で教える内容を取り扱うため、ある程度実技の練習が必要になります。また、教材研究や指導案作成、模擬授業の練習等のため、時間外の指導を行う場合があります。				
関連リンク					

時間割番号	2U2010	科目名	家庭科学習指導実践演習	単 位 数	2
担 当 者					
開講学期	後期	開講年次	1	区分	
概　　要	1. 小学校家庭科の先行授業実践の分析を通して、児童の発達課題、生活課題の視点から授業開発、教材開発の諸問題を検討します。 2. 紹介されたすぐれた先行授業実践を踏まえて、授業開発のあり方を考察し、実践します。				
教育目標との関連	子ども発達教育専攻科の教育目標である「学士課程4年間で学修した小学校教員として必要な知識、技能などの基盤の上に、教育に関する専門的な事項を習得し、教育実践現場における諸課題の解決力を磨く」と関連しています。				
到達目標	児童の実態を踏まえて、小学校における学習指導方法の改善策を考察し、実践的学習指導力を身につけます。				
評価方法	授業への参加状況（討論への参加、討論内容、受講態度）、レポート、定期試験をもとに、目標到達度を総合的に評価します。				
備　　考					
ﾃｷｽﾄ・教材・経費等	特になし。資料を随時配布します。 ▽参考書：参考書は随時指示します。				
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：家庭科授業における「つまずき」の構造 第3回：特別支援教育における家庭科授業 第4回：発達課題からみた先行授業実践の分析 第5回：発達課題からみた指導方法による授業効果（実践も含む） 第6回：発達課題からみた教材開発による授業効果（実践も含む） 第7回：生活課題からみた先行授業実践の分析 第8回：生活課題からみた指導方法による授業効果（実践も含む） 第9回：生活課題からみた教材開発による授業効果（実践も含む） 第10回：実習学習における「つまずき」の実際 第11回：実習学習における効果的指導方法（実践も含む） 第12回：実習学習における効果的教材開発（実践も含む） 第13回：子どもの「つまずき」に配慮した家庭科授業の開発 第14回：理論学習における授業実践と評価 第15回：実習学習における授業実践と評価 定期試験				
学習上（予習・復習）のアドバイス	小学生の生活実態について、新聞、テレビ、雑誌などを通じて常に関心を持つようにしてほしい				
関連リンク					

時間割番号	2U2011	科目名	児童英語学習指導実践演習	単 位 数	2
担 当 者					
開講学期	後期	開講年次	1	区分	
概　　要	小学校外国語活動の目標について十分に理解した上で、小学校外国語活動に必要な理論・実践についての知識を備えて、ペアや小グループを通して自信を持って教室活動を行うための実践能力を涵養するための演習を行う。				
教育目標との関連	子ども発達教育専攻科の教育目標である「学士課程4年間で学修した小学校教員として必要な知識、技能などの基盤の上に、教育に関する専門的な事項を習得し、教育実践現場における諸課題の解決力を磨く」と関連しています。				
到達目標	・小学校外国語活動の目標について、中・高等学校の英語教育と関連して理解すること。 ・小学校英語と中学校英語との連携について理解すること。 ・指導方法や教室英語を含めて、指導実践に役立つ理論と指導法について理解すること。				
評価方法	授業への参加状況（討論への参加、討論内容、受講態度）、レポート、定期試験をもとに、目標到達度を総合的に評価する。				
備　　考					
ﾃｷｽﾄ・教材・経費等	萬谷隆一他（編）『小中連携Q＆Aと実践　小学校外国語活動と中学校英語をつなぐ40のﾋﾝﾄ』開隆堂出版、2011. 文部科学省『小学校学習指導要領　外国語活動編』 2008. ▽参考書：適宜、指示する。				
授業計画	第1回：授業オリエンテーション(授業のねらい) 第2回：外国語活動の基本（1）目的と目標 第3回：外国語活動の基本（2）小中学校のちがい 第4回：外国語活動の基本（3）コミュニケーション活動 第5回：外国語活動に関する疑問と背景（1）Team Teachingとは 第6回：外国語活動に関する疑問と背景（2）カリキュラム 第7回：外国語活動に関する疑問と背景（3）国際理解教育との関連 第8回：外国語活動に関する疑問と背景（4）学習開始年齢 第9回：外国語活動と中学校英語科との違い（1）目的・目標のちがい 第10回：外国語活動と中学校英語科との違い（2）小中教師意識のちがい 第11回：中学校英語科への連携ﾋﾝﾄ（1）教科書 第12回：中学校英語科への連携ﾋﾝﾄ（2）読み書きについて 第13回：中学校英語科への連携ﾋﾝﾄ（3）文法指導 第14回：小中連携のためのﾋﾝﾄ（1）小学校教師の不安 第15回：小中連携のためのﾋﾝﾄ（2）小中連携のあり方 定期試験				
学習上（予習・復習）のアドバイス	小学校外国語活動では、最低限の英語による聞く、話す能力が必要となります。児童の日常生活について、生活言語としての英語（ものの名前、動き、挨拶などの基礎的表現など）によって自然に表現できるように練習を重ねてください。				
関連リンク					

時間割番号	2U1012	科目名	教育実践インターンシップ	単 位 数	4
担 当 者					
開講学期	前期～後期	開講年次	1	区分	
概　　要	広島市内公立学校（又は幼稚園）においてインターンシップ活動校を選定し、本学の指導教員及びインターンシップ先の指導教員の指導のもと作成した1年間にわたるインターンシップ計画に基づき、インターンシップ校（又は幼稚園）における授業実践・学校行事に参画します。				
教育目標との関連	教職関連科目で学習した内容を基に、学習指導、生徒指導、学級経営、および学校経営をインターンシップ校で実践的に学び、教師としての力量をレベルアップするとともに、学校を取り巻く地域や保護者を含む学校の文化を学びます。				
到達目標	「教育実践インターンシップ」とは、大学で履修する「学校支援ボランティア」を発展させたものである。広島市内公立小学校（又は幼稚園）に1年間配属し、専攻科における授業時間以外で卒業時まで各種実践に参画し、校長や指導教員のもと、教員としての実践的指導力の向上を図ります。				
評価方法	インターンシップへの取り組み状況、インターンシップ校における評価、総括のレポートをもとに目標到達度を総合的に評価します。				
備　　考					
ﾃｷｽﾄ・教材・経費等	適宜、紹介します。 ▽参考書：適宜、指示します。				
授業計画	第１回：「教育実践インターンシップ」の説明と参加の意義 第２回：事前研修-—「教育実践インターンシップ」で必要とされる資質と留意点 第３回：事前研修—インターンシップ校の選定 第４回：事前研修—インターンシップ計画の作成 第５回～第27回：「教育実践インターンシップ」への参加、途中報告及び指導 第２８回：インターンシップ訪問指導 第２９回：事後研修—「教育実践インターンシップ」の総括 第３０回：事後研修—「教育実践インターンシップ」の成果発表				
学習上（予習・復習）のアドバイス	インターンシップ学習計画を立てるとともに、インターンシップ校で経験するすべての学びを記録し、振り返り、次の実践に生かすことが重要。また、インターンシップにふさわしい態度とマナー、教師としての知識や技能を身につけておくことが必要です。				
関連リンク					